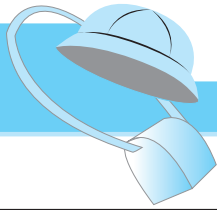


1 幼稚園



No.	テーマ等	人権教育の視点
(1)	おたんじょうかい	自尊感情の形成 生命の尊厳

1 ねらい

- (1) 保護者や家族の人など、身の回りの人からの話を聞いて、回りの人に愛されていることや生命の大切さに気づく。
- (2) 友だちに誕生を祝ってもらったり、友だちの誕生を祝ったりする機会を通じて、自分や友だちのよさに気づく。
- (3) 成長したことに喜びを感じるとともに、お世話になった方々に感謝の気持ちをもつ。



2 指導にあたって

- (1) 最近、いじめや児童虐待など子どもの生命にかかわる事件が多発している。幼稚園は「親と子の育ちの場」としての役割を担っており、子育ての楽しさ、子どもが育つ楽しみや喜びを伝えていくなどの工夫が求められている。

そこで、誕生会等の機会を通して、幼児には、保護者をはじめ、身の回りの人々から生まれたときのことや幼い日のことなどを聞くことで、多くの人々の支えによって自分が大きくなっていることや生命の大切さに気づく機会とする。

また、保護者には、子どもを授かった喜びやわが子のよさに改めて気づかせ、子どもの成長を実感させ、豊かな成長への願いがもてるよう支援する。

- (2) 幼児の育った環境はさまざまなので、一人一人の家庭環境等に十分配慮することが必要である。幼児には、自分を大切にすることに気づかせ、自分が誕生してきたことがすばらしいことだと感じるように指導する。

保護者の中には、子どものよさを「できる」「できない」のみで判断し、多様な価値観でとらえていなかったり、子育てに悩みや不安を抱えたりしている人もいる。そのため、誕生会を通して、日頃気づくことの少ない、子どもが生まれたときの家族の思いや子どもの育ちにも目を向けさせるとともに、授かった生命の尊さについて改めて考える機会とする。

3 展開例

活動内容	◎環境の構成 ★教師の援助
<p>1 誕生児は、自己紹介をする。 自分の名前や得意なこと、チャレンジしたことなどを発表する。</p> <p>【予想される誕生児の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びや仲良し遊びにチャレンジする。 ・歌を歌ったり、楽器を演奏したりする。 ・絵を描いたり、制作したりする。 ・飼育している動物等の世話をしたことを話す。 <p>2 幼児は、誕生児を祝うとともに、誕生児の自己紹介を聞いたり、チャレンジ等を見たりする。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さん、きれいな声で歌っているね。 ・〇〇さん、ウサギが大好きだね。 ・ウサギさんをだっこしたら、あたたかかった。 	<p>★誕生児が自信をもって話ができるように、日々の生活の中で、認めたり、励ましたりする。</p> <p>★誕生児の育ちやよさに気づけるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなことに興味や関心をもって取り組んでいる。 ・つまずきや葛藤を経験し、それを乗り越えようとしている。 ・小さな生命との出会いの中で、生命の大切さに気づいている。 ・自分の気持ちをさまざまな方法で表現しようとしている。 ・基本的な生活習慣を身につけている。 ・みんなと生活する中で集団生活のきまりを知ったり、約束を守ったりしている。
<p>自信をもって自己紹介・・・友だちのよいところに気づいたね・・・</p>	
<p>3 保護者等の話を聞いたり、写真等を見たりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親の胎内で動き始めたときの家族の喜びやその様子 ・子どもの誕生を家族や身の周りの人が楽しみにしていたこと ・子どもの名前の由来に対する家族の思いや願い ・子どもの育ちに対する喜び ・病気等で子どもの体調を心配したり、看病したりしたときの思い ・子どもがいることで、家族や周りの人が楽しくなる気持ち <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんのときの服、小さいね。頭が入らないね……。 ・〇〇さん、大きくなったね……。 ・お母さんのおなか、けていたの？ ・元気な赤ちゃん……。 ・病気の時、みんなでお世話してくれてありがとう……。 	<p>★保護者等の発言内容（子どもが生まれたときや幼い日の家族の思い等）については、事前に伝え、子どもと一緒に誕生会を楽しみに参加できるよう配慮する。</p> <p>◎誕生児の成長がわかるように、持参してきた生まれた頃の写真や服等は、幼児たちに見えるようにする。ただし、幼児の育った環境はさまざまなので、一人一人の家庭環境等に十分配慮する。</p> <p>★保護者等の発言に共感するとともに、子どもが生まれたときや幼い日の家族の思いから、一人一人が大切な存在であることに気づくよう配慮する。</p> <p>★母親の胎内で動き始めたときの家族の喜びや病気等で看病されたときの家族への思いから、生命の大切さやお世話になっている人々への感謝の気持ちに気づくよう配慮する。</p>
<p>お世話になっている方々に感謝の気持ちを込めてありがとう……</p>	

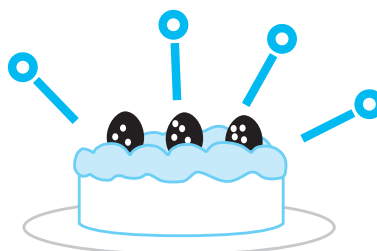
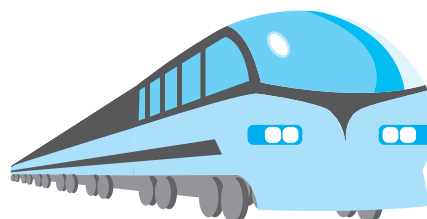
No.	テーマ等	人権教育の視点
(2)	大きくなったら、何になる？	自分と社会についての認識の啓培 個性・能力の伸長

1 わらい

- (1) 自分の身近な人々がしている仕事に関心を持ち、自分のしてみたいことを思い描く。
- (2) 感じたことや考えたことを話すとともに、いろいろな思いや考え方があることに気づく。

2 指導にあたって

- (1) 幼児は、誕生会などに「大きくなったら、〇〇になりたい。」など、夢を話すことは多いが、身近で働く人々にふれることは少なく、その仕事の種類も限られているのが現状である。最も身近な社会人であるおうちの人がしている仕事を知ることで、いろいろな仕事があることを知ったり、おうちの人が家族のために働いていることを知って感謝の気持ちをもったりすることができる。
- (2) 「花屋さんやケーキ屋さんは女の子」「大工さんや電車の運転士は男の子」というように、無意識のうちに職業に性別のイメージをもっていることが多い。あえて質問することで、自分が何となく思い込んでいたことに気づかせる。また、友だちの話を聞きながら、性別にとらわれず自由に発想していく方向へ意識づけをする。さらに、思ったことや考えたことを率直に言い合うことが、自分の先入観などに気づくことになるので、どんな考えでも出し合える雰囲気を大切に



3 展開例

活動内容	◎環境の構成 ★教師の援助
<p>1 「おうちの人の仕事」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな仕事があることに気づく。 ・おうちの人の仕事を知り、感謝の気持ちやすごいなあと感心する気持ちをもつ。 	<p>◎家族の仕事のことを聞くと、幼児は「お仕事に行っている」「会社に行く」などと答え、仕事の内容を知らないことが多いため、事前に家族に聞くように伝えておく。</p> <p>★一人親家庭や共働き家庭もあるので、仕事をしているのが家庭の中の誰であるかを掌握して発問する。</p>
<p>Aちゃんは、おうちの人がどんな仕事をしているか知っている？</p>	
<p>2 大きくなったら何になりたいかを一人ずつ話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ、になりたいか」「どんな〇〇になりたいか」など、具体的なイメージを話す。 ・友だちのやりたいものを聞く。 	<p>◎考えたままに、自由に話せる雰囲気をつくる。</p> <p>★聞いている幼児にもイメージが伝わるように適切に質問をする。</p> <p>◎視覚に訴える資料を用意しておく。</p>
<p>Aちゃんは、パン屋さんになりたいんだね。どんなパン屋さんになりたいのかな？</p>	
<p>3 いろいろな仕事があるが、男の子でなければなれない仕事、女の子でなければなれない仕事があるのかを話し合う。</p>	<p>★男児・女児共通に出てくる仕事もあるが、どちらかからしか出てこない仕事もある。「男の子は〇〇になれないの？」など問いかけ、思ったことを発言させたり、疑問をもたせたりするよう配慮する。</p> <p>★なぜなれないと思うかを、思ったとおりの言葉で話させ、友だちの言葉に共感させたり、疑問をもたせたりするよう配慮する。</p>
<p>Aちゃん(男児)もBちゃん(女児)と同じパン屋さんになりたいんだね。CちゃんとDちゃんは大工さんになって、おうちを作りたいんだって。女の子は、大工さんになっておうちを作ったりしないの？</p>	
<p>4 今まで考えてみなかった仕事をしている自分を想像する。</p>	<p>◎なりたいものが変わることや広がりをもつことを今すぐ期待するのではなく、選択肢が広がっていく伸びやか感、開放感が感じられるような雰囲気を大切にする。</p>